

1 Let's study at university! 「大学で学ぼう」の新しいカタチ



学びのパートナーの拡大 「高校生ボランティアの募集」

令和6年度は、高等学校に、大学で学ぼうでのボランティアの案内をしました。応募していただいた高校生には、「大学で学ぼうについて」「学びのパートナーについて」「知的障害者の学び方について」に関する動画を視聴していただいて、参加をお願いしました。

高校生ボランティア
「学びのボランティアとは」

最初は、どのようにコミュニケーションとっていいかわからなかったけど、アイスブレイクで仲良くなって、安心して一緒に学ぶことができました。

一緒に体験して、感じたことを話し合うなかで、お互いのことを理解し合えたように思います。新しい発見!もありました。

4

お問い合わせ

静岡大学教育学部准教授 山元薫
メールアドレス yamamoto.kaoru@shizuoka.ac.jp 研究室直通電話 054-238-4246
静岡県障害者就労研究会事務局 瀬戸脇正勝
メールアドレス masakatsu.setowaki@gmail.com FAX 054-209-2888



令和6年度学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業
大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築

Base・Visit・Satellite型による 生涯学習の開催による参加の機会の拡大と深い学びの実現

令和6年度は、生涯学習の機会の拡大を目指して、「場所の拡大」「仲間の拡大」「障害者の参加場所の拡大」を目指して、以下の3つに取り組みました。

①市内の民間施設や公共施設を活用して、生涯学習を実施

初の試みとして、地域の施設を活用した生涯学習の実施(サテライト型)に取り組みました。静岡駅に集合して、時刻表や地図を見たりしながら、参加者で協力しながら会場に移動しました。専門施設で実際の学びをすることで理解が深まったと答える参加者が多かったです。

②「学びのパートナー」としての高校生の参加

高等学校に、「大学で学ぼう」のボランティア募集のチラシを配布し、高校生の参加を呼びかけました。第3回大学で学ぼうには、高校生が参加してくれました!特にお互いが理解し合えるには、「成功体験」「共感」「直接的な接触」が大切であることが分かりました。

③静岡県内の障害者を対象とした生涯学習の実施状況調査

静岡県内の147施設に郵送にて生涯学習に関するアンケート調査を実施しました。障害者を対象として企画している生涯学習の実施は少なく、既存の生涯学習プログラムに合理的配慮を提供する形で対応していることが分かりました。

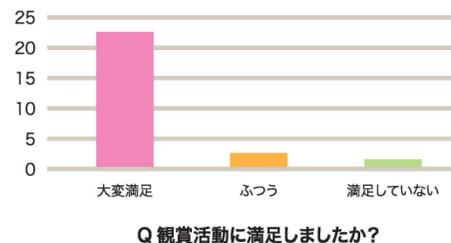
2

令和6年度「学ぶって楽しい！」大学で学ぼう実施報告



第1回 大学で学ぼう「美術館へ行こう！」

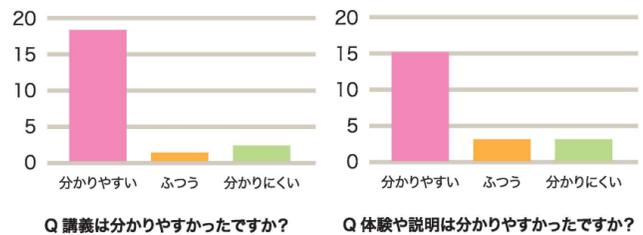
集合・講義場所／パルシェ会議室
見学場所／静岡市美術館



静岡市美術館
SHIZUOKA CITY
MUSEUM of ART

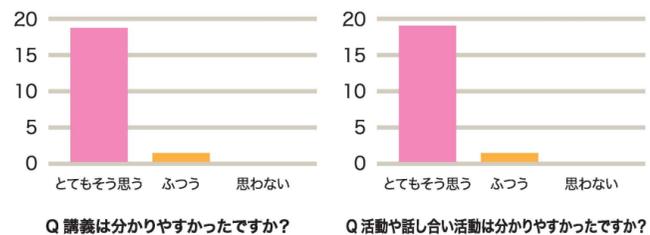
第2回 大学で学ぼう「防災について考えよう」

集合場所／静岡駅バス停
見学場所／静岡県防災センター



第3回 大学で学ぼう「おでんの秘密」

集合場所／静岡駅バス停



調査期間 / 2024年10月～11月
調査方法 / 質問紙を郵送し回答を得る
調査対象 / 静岡県内の生涯学習施設130カ所と静岡県内の公民館17カ所
回収状況 / 78カ所(回収率53.1%)から回答が得られる。
この内生涯学習施設は68カ所(52.3%)公民館は10カ所(58.8%)



表1) 2023年度に開催した生涯学習活動の回数

2023年度に開催した生涯学習の回数	件数(割合)
0回	9件(11.5%)
1～9回	12件(15.4%)
10～19回	8件(10.3%)
20～29回	24件(30.8%)
30～39回	15件(19.2%)
40～49回	7件(9.0%)
50回以上	10件(12.8%)
その他・無回答	3件(3.8%)

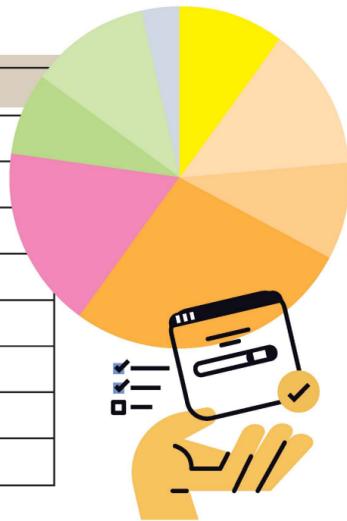


表2) 生涯学習ニーズを把握していると答えた施設の地域

「把握している」と回答した市町(全施設数)	件数(割合)
静岡市(16施設)	6(37.5%)
浜松市(19施設)	3(15.8%)
磐田市(7施設)	1(14.3%)

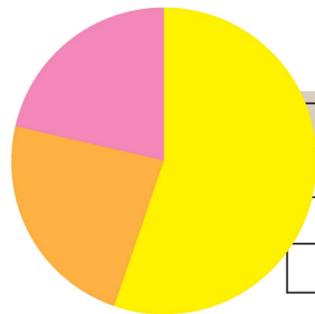
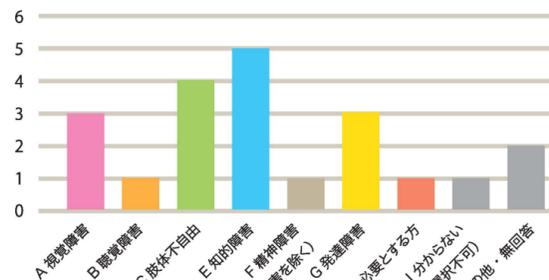


図1. ニーズを把握している障害種



生涯学習の内容について把握調査をしている施設は表2の通りになります。県全体とすると、とても少ないことが分かりました。また、把握している障害種については、知的障害、肢体不自由、視覚障害、発達障害の序になりました(図1)。

図2. 障害者の生涯学習活動形態

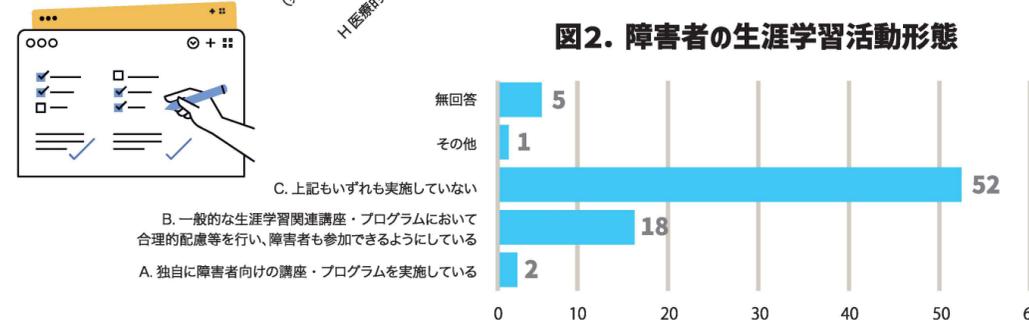
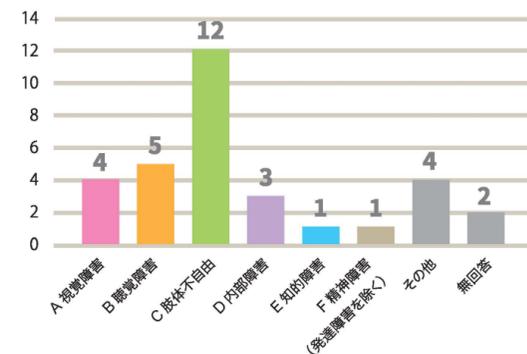


図3. 合理的配慮を行っている障害種



実際の障害者の生涯学習の参加は、一般的な生涯学習関連・プログラムに参加していることが多く(図2)、合理的配慮を提供することによって、障害者の参加を促していることが分かりました。合理的配慮を提供している障害種は、肢体不自由の方が多いことも分かりました(図3)。



3

静岡県内障害者を対象とした生涯学習の実施状況に関する調査

